

Case-3 千里山バス

昭和 48 (1973) 年に貸切バス事業を開始した千里山バスは、現在大阪府摂津市に本社を置き、兵庫・京都にも営業所を構えている。「より安全に」「より快適に」「より経済的に」「より迅速に」の4つのコンセプトを掲げ、“安全性評価認定二つ星”、“グリーン経営永年表彰”、“おもてなし規格認証”等様々な認証・表彰を取得している。



【会社概要】

※ 2023 年 3 月 31 日時点

会社名 | 千里山バス株式会社
本社所在地 | 大阪府摂津市東別府 3 丁目 8 番 32 号
事業内容 | 一般貸切旅客自動車運送事業

運営車両 | 小型バス (26人乗) 50 輛、
中型バス (29人乗) 16 輛
従業員数 | 94 人

CO₂ 排出量可視化ツール導入概要

測る



『可視化ツールの導入を考え始めたきっかけ・知った場面』

- ・業務活性化委員会を通して何度かセミナーに参加していたところ、サービス提供事業者（東武トップアース株式会社）より可視化ツールの提案を受けたことがきっかけ。

『可視化ツールの導入の決め手』

- ・エコドライブは燃費の抑制に加え、安全運行にも繋がるため、2009 年より公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が主催する「エコドライブ活動コンクール」に毎年参加している。
- ・長年に亘る活動が功を奏し、2019 年には主催団体より「グリーン経営認証永年表彰」を受賞。
- ・この受賞を受けて、グリーン経営が安全運行に繋がるという意識が強固なものとなり、さらなる取組を模索していたところ、可視化ツールの導入に至った。

『導入した可視化ツール』

- ・ DeTS(Decarbonising Tourism System)<https://www.dts2050.com/>（提供事業者：東武トップアース株式会社、株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所）

『導入時期・範囲』

- ・2021 年に導入

『ツール導入・活用において苦労した点・悩んだ点、対応策』

- ・ツールの使い勝手や操作面で、分かりづらい点などは特にない。
- ・公共交通機関が動いていない時間帯の出退勤も多いため、従業員の殆どがマイカー通勤をしており、通勤距離は把握できているものの、通勤時の排出量の算出はできていない。

効果



『導入効果』

- ・毎月アイドリングの目標を決めており、達成できた従業員には毎月の給与と併せて手当を渡している。
※従業員の体調を考慮し、夏季・冬期は気候に合わせて目標を決定

ツール活用に関する今後の取り組み

- ✓他社との比較や他のバス会社の脱炭素の取組の情報収集を通じて、さらなる削減のための施策を検討し実行して行きたい。
- ✓まだ紙媒体を使用している業務もあるが、デジタル化していく必要を感じており、その際に可視化ツールも活用したい。
- ✓今後は、2024年問題に端を発した働き方や人材確保に関する課題が生じると考えており、それらの課題解決に可視化ツールから得られる情報も活用していきたい。

その他の脱炭素関連の取り組み

- ・環境省エコドライブ普及連絡会が提唱している、“エコドライブ10か条”に取り組んでいる。
- ・オイル交換時に出た廃油は、回収業者に買い取ってもらっている。
- ・バス運行で出た空き缶を収集して売って、その費用で教育委員会にクリスマスプレゼントを贈呈する取組も長年行っている。
- ・車庫を含め、照明は全てLED化している。
- ・事務所でも節電を呼びかけ、社員一体となった取組を行っている。
- ・営業車はEV車両、FCV（燃料電池自動車）を1台ずつ導入している。営業車の可視化は特に行っていないが、バスに導入する前に、乗り心地や使い勝手を試す意図もある。



エコドライブ10か条



節電の呼びかけ
(事務所内)



EV車両（電気自動車）
を導入

『脱炭素化関連情報の収集方法』

- ・公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団より、情報が提供される。
- ・バス協会を通じて、助成金を含む水素バスなどの情報が入ってくる。